

つどい

第 430 号
2024.8.1

発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

豊中市福島の町通一丁目一丁目二丁目
〒599-0101 福島の町五丁目小川 滋 宅
電話 090-4540-0101 090-4540-0101

古墳時代中期の政権構造

山口大学客員教授 田中 晋作



はじめに

古墳時代の政権構造については、これまでにさまざまな考えが提示されてきている

が、筆者は大和盆地東南部地域に興った有力勢力が古墳時代をとおして継続して成長を遂げていくのではなく、複数の有力な勢力によって構成された政権内で主導権をめぐる確執、交替があったとの立場をとっている。すなわち、広義の大和古墳群を中心にした大和盆地東南部地域の勢力↓佐紀・馬見古墳群の勢力↓百舌鳥・古市古墳群の勢力↓今城塚古墳を中心にした淀川水系と猪名川流域の勢力↓大和盆地南部地域の勢力へと、政権内の主導権が時間的な重複をもって交替したとする考えである(註①)。

古墳時代中期の政権構造 田中 晋作
高槻市三島古墳群と新池遺跡(下)
―三島の埴輪ロードを歩く― 古高 邦子
「同じ古墳に眠る人々の親族関係」 石塚 一郎

この考えは、白石太一郎氏がのちに畿内と呼ばれるようになる地域においてみられる大型古墳群の動態から導き出した政権内の盟主権の移動と(白石二〇〇〇)、都出比呂志氏が桂川右岸地域で見出した首長墓系譜の変動から読み解いた政権勢力の政治的変動に連なるもので(都出二〇〇五)、「モノ」の移動からこのことを明らかにしようとして試みてきた(田中二〇〇九他)。具体的には、前期から中期半ばにみられる三角縁神獸鏡、前期後半に創出され中期後半まで副葬が継続する農具形石製模造品(以下、石製模造品)、中期の帯金式甲冑と挂甲をあわせた甲冑、さらに福永伸哉氏らが精力的に進めてきた後期前半の振り環頭大刀などの検討を援用して(福永二〇〇五他)、畿内およびその周辺地域を対象に、その分布の